

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 沖縄に関する第三国の動向（韓国）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43848

会談・発言

秘
無期限

アメリカ為題
参事官
領事 → 北米中一課長
安全保障課長

Levin 米国大使館書記官来談要旨

44.2.26
北東アジア課

Levin 書記官は、本26日北東アジア課と来談し、

沖縄返還問題に對する韓国、台湾の関心について

の26日付朝日(朝刊)記事に言及して、二か国が

沖縄問題に對して fooling around しているという

趣旨の記事は、米国の二か国と述べると共に

(24、25の両日)

日下(佐々木)日韓議員懇談会に於いて

いかに論議を盛らねばと尋ねたのに対し、

在米米上達領事官より(手紙)に送付手配済引

当方より同懇談会の討議内容については、発表

された共同コミュニケに盛り込まれている以上の情報に

ない旨答へた。同書記官は、更に

当方の領内に答へた要旨次のとおり語つ

た。

1. (当方より、沖縄返還は韓国にとり関心事に

あつては理解できず、米が公式には何等

の了解を示さず、非公式にも最近に於て

先般の

日韓協力券や今回の懇談会に関心の表明が

あつたわけであるが、米側にはアプロウ

して来たが、必ずしもそのとおりではない

在京韓国大使館の金大智書記官は沖繩

の情勢について送一本国に報告する任務があり、

以前から屢々沖繩の話が出ているが、返還

問題について韓国の安全保障の観点から話が出た

のは極く最近である。金によれば本国政府

は返還問題について憂念 (concern) は有るが

るが、直接米に又は日本に申し入ることは

躊躇している模様であるが、日米間

の話し合いが煮詰まるといふこと、韓国政府の

concernも益々強まるといふことは予想される。自分

としては韓国側が東京のレベルのレベル

本件について話し合うのは、ソウルやワシントンで接触

してより先は遙かに良いと考へる (ソウルやワシントン

では余りに公式化する惧あり)、金が大分等

米側や千葉北米課長と話し合うことについて

encourage している。ただし、金には何ら言

は返還問題における米国の立場を応援してい

るといふ向違つた印象を持たないようにはして欲

このことを念に判り言っている。
自衛隊が秀でているのは、(エリクソン参事官の
ideaの由) 沖縄返還問題は、極東にお
ける米軍戦力の削減という点に於いて、永年
にわたる米国の施政下にある沖縄住民、
及び日本国民の強い要望に~~対~~かみ、沖縄
(ここは必要あり、かつ、どうする)
を日本に帰還する~~こと~~により、日本警備力
に在る沖縄米軍基地の警備等に万全を期するこ
とになるの故に、御親来を韓国側に力説
する~~こと~~あり、~~また~~ (ここはとち) 返還問題の推
進の機略を韓国側にも知らせておく。
外務省

ことである。勿論、返還問題については日米
両国間に行なわれている交渉の内容を知らせる
ものではない (nothing of that kind)。
韓国側がこの公式ルートによる concern の
表明は、ソウルにも東京にもワシントンにも
未だない。
2. (FOCUS RETINA 米戦略軍空輸演習に
ついで) この演習計画は2年位前から
おこなわれ、当時は在韓米軍が~~この~~演習に
参加して~~いる~~問題~~も~~あり、~~また~~ (この関連) 沙汰止しとあり、
昨年はフエフエ事件があり、この計画を実施
外務省

あることは、日本を不必要に刺激するとの

在京大使館の発言もあつて ⁽²¹⁾ 近頃 ⁽²¹⁾ 工場の

である。米国には 2 年前 頃から、外国
特にドイツ、韓国、ウイナム

YH の米国地上軍の兵力を削減する事につき

議会でも検討され、その一環として米本土の

空輸作戦演習が思いつかれたもの ⁽³⁾ である。現在 ⁽³⁾ 一
方 ⁽³⁾

も在外兵力の米本土引揚げ ⁽³⁾ という国民感情 ⁽³⁾ は益々

強く、他方 韓国の安全保障 ⁽³⁾ について 韓国側 ⁽³⁾ にも

安心せしめ ⁽³⁾ 必要性 ⁽³⁾ があつて、米本土引揚 ⁽³⁾

り ⁽³⁾ は何時実現するか全く将来の問題 ⁽³⁾ であるが、

今回の案 ⁽³⁾ は、どういふ背景 ⁽³⁾ において ⁽³⁾ の ⁽³⁾

デモストレーション ⁽³⁾ である ⁽³⁾ と思う。

愛知大臣、李東元懇談について

44.2.28
北 亜

2月27日夕、日韓議員懇談会に参加するため滞日中の李東元前外務部長官は、愛知大臣と接見室において約30分懇談したところ、その要旨次のとおり。

記

(李) この接見室は、私にとり日韓会談当時の想出の場所である。あの時椎名大臣には本当によくやつていただいた。韓国内がしつかりしていないため必要以上の御尽力もお願いしなければならぬことが屢々あつた。日本は今や大國として世界を相手にやつて行かなければならず、韓国は、その中の一國に過ぎない。

(大臣) 昨年来崔長官が、国連の帰途立寄られ又、張基栄さんが引続き来られ、色々お話を伺う機会を得て甚だ有益であつた。一番の問題は、韓国が、38度線を抑え緊張を目前にしているのに対し、日本にはそれがない点である。日韓国会の時もそうだが、野党新聞の意見は困つたことだ。北鮮帰還、葛参等大したことになるし、人道的問題だと考えていたが、新聞が、種々書きたてて御迷惑をおかけした。米の問題は敵大使が、お骨折り下さり、両國間の問題も一つ一つ片付いてきている。私は、岸、佐藤両氏とは、ずっと一緒であつたので、私の気持はわかつて貰えると思う。

(李) 今回の滞日中、岸さんとも色々話しを

したが、韓国側の感情的な面も随分よくなつた。国交が正常化して、韓国は経済的、技術的、文化的、精神的に日本より刺激を受け日本に学ばなければならないと感じる。他面、日本人も韓国に采れば、韓国の若い情熱、38度線のことなど得るところがあると思う。一挙によくはならなくても一歩一歩よくなつて行く、韓国側は、朴大統領が、日韓国交正常化に命をかけただけに、現政権がある間は大丈夫である。佐藤政権も韓国には信念をもっているので、今の中に基礎が固まれば、将来他のものが入つて来ても安心できる。色々なことがあつても大きい気持で受けていただきたい。

(大臣) 今国会で、沖縄が大きな問題になつ

ており、野党側が、韓国との関係をしきりに追求してくる。

われわれは、日米安保体制が、すべての基礎になつており、この体制が、極東の安全と平和に寄与していることは明らかであるので、この点は、野党側に対し、はつきり考えの相異であるということにしている。

(李) 今日中曽根さん、三木さんに逢つた際、沖縄の話が出、1時間以上も議論した。政治には、時代的流行性ということもあるが、一方的希望でできるものではないので核ぬきといつても、中共の核がある以上、日本がアジアの指導国となつて、核がなくても安心できる情勢を導き出すのでなければ、ただのセンチメンタリズムで沖縄問題

を考慮してはならないと思う。国民は、この
ような点について啓蒙すればわかる筈であ
る。

(大臣) 自民党は選挙をすれば3分の2はと
れるので心配はないが、どうも新聞が反政
府の論説ばかり書いて、国民が、新聞に「読
まれ」てしまうのは困つたことである。

(李) この頃の新聞は「ひねり」が出すぎて
いる。

(大臣) 国会の野党の攻撃は、新聞の切抜き
のつぎはぎである。本当のディスカッショ
ンは、そんなところにあるのではないのだ
が。

(李) 貴大臣御在任中に是非一度韓国に来て
いただきたい。在外務部長官一私の同僚で、

真面目で、誠実で、安心して話しのできる
人間であるが、貴大臣に韓国に旅行さ
れるよう伝えてくれということであつた。
最後に、日韓関係は、佐藤内閣の間に切つ
ても切れなぬものにしておきたいという気
がするので、もう一度この点を申し上げる
次第である。

大 陸

事務次官

極 秘
無 期 限
部の内
部 号

外務審議官
外務審議官
官 長

アメリカ局長
参事官
北米一課長 (北米一課長付)

アジア局長
参事官
北東アジア課長

ロッキース 國務長官 金東祚
駐米 韓国大使 会談 について
平成 4. 3. 22
22日 在京米大使館 駐米 書記官 19
日 金東祚 韓国大使 から ロッキース 國務長
官 へ 会談 した 際 アジア の 地域 協力 に つい
て の 通り の 会談 と 交した 旨 confidential
の 趣き と して 通報 された。 正式 会談
録 は 後刻 又 于 次 方 へ 提供 する 中。

記
(金大使) = クソソ 大統領 の アジア 地域 協
力 に つき 見解 と 表明 される 際 経済 的、

GA-5

外務省

文化的 地域 協力 を 考 えて お り ます
の の、 とい とも 安全 保障 取 極
(security arrangement) を 考 えて お り ます
の の、 同 じ こと。

(ロッキース 長官) 前 者 である。 米 国 政府 は
この 以上 の 安全 保障 取 極 (any

additional security arrangement) を 考
慮 する わけ は ない こと。 この 種

問題 について 護 国 新 肉 の 變 因
系 (climate of opinion) について、 今 更

貴 下 の 御 注意 と 喚 起 する 必要 は ない
と思 います。 尤 も アジア 諸 国 間 の 地

域 取 極 (regional arrangement) は
話 が 別 である。 然 し、 この 中 は

GA-6

外務省

現在この種の新しい取極 (new
part of this part) を締結するの

時期的によいと思わぬわけである。

(金東作) 若し米国に対し Qapac に

加盟するよう招請するときは、米
国のリアクションは、いかほどあろうか

(ロバート長官) そのような動きを考慮するの
は、好ましいこと (desirable) とは

考えない。米議会の反応は、この
種の約束を更に行なうことについて

に対する否定的であろうというのが私の
感触である。

北米一課長

南方課

新聞

事務次官	政務次官
外務審議官	情報文化局長
外務審議官	赤谷審議官
官房長	報道課長
総務参事官	国内広報課長
大臣秘書官	

記者会見 (第33号)

(閣議後)

情報文化局報道課
昭和44年4月1日

スポーツマン 愛知大臣

大臣「閣議については申し上げることはない」

閣議前、日加関係会議に出席する関係関係

間で、その事務当局から聞き、勉強しな

とあれは集らうということになった。

(質問に答へ) 一番議題ありきという有

と申しては強いて言へば通産とも知れ

北米一課長
木村秘書官
西欧一課長
北米一課長

GA-6

外務省

い、農林省も或いは先方の出方によっては

物資別の議論も出るかも知れないと関係の

テ-ブルに出るかどうか

向「昨日の法王庁大使との会見で70年

に法王が来日される話はなされたが

来られることは再々年々な話も知れな
大臣「~~これは~~これはオフレコにして

ほしいが、法王庁大使の離任挨拶の

ため来訪の際、大使から法王には訪日

される気持はあられい、万機、

各国元首に対する招待があっても法王は

5/8

外務省

傳統的にも元首招待に join させる
 ことはな...との内話があったので、訪
 日された...お気持ちがあるなら、それを確
 定するために内々御相談しようと言って
 おいた。

向「インドネシアや沖繩に対する援助
 に関し、法案を今国会に提出させる
 ことならば、
 大臣「私の希望としては明日にでも
 法律を作ってもらいたいが、見送りとしては

みんな余り気乗りしないように今国会では
 難しいと思う。

向「韓国外相から金山大使に沖繩問
 題について何の話があったとの報道があるが、
 大臣「公けのルートとしてこの問題が
 出たのは初めてだ。韓国側^韓の^韓
 国の安全が脅かされるように重大な
 心があるのではないかと、なまじり今
 後の取扱...にらいてしむべく配慮して
 ほいとの趣旨のようである。当

金山木使より、軍の問題はあくまで日

米兩國向の問題であるとして察しゆう

してゐるが、これはいつも私の言つてゐる

とおりである。

大臣「帰つて来たが就任後の関西

戦界への控投のため明日関西へ赴き

伊勢神宮にも参拜し明後日夜帰京

する。

北米第一課長
南支那
7-File

秘
無期限

愛知大臣、殿大使会談用資料

444/1
北東アジア課

発言要領

1. 北鮮帰還

本件については、本年1月に一時帰還される際、牛場次官よりご説明して以来、特に進展はないが、その後の経緯は次のとおりである。

暫定措置終了後、例外的配給を認める場合における朝赤係官の入国手続について、2月始めに日赤が行なった提案に対して、朝赤は第三者たる赤十字国際委員会が介入することは不当であるとして、日赤提案を拒否して来た。日本政府としては、日赤提案はリーズナ

4. 沖縄問題（先方よりふれた場合）

(1) 沖縄問題は4分の1世紀近くもわが国の施政から切離された沖縄の祖国復帰を1日も早く実現したいという本土、沖縄を通じての日本国民の強い懇願に基づくもので、わが国内で最大の問題の一つとなっていることは申し上げるまでもない。しかしてこの問題の解決は、現在沖縄の施政権を保持している米國とわが國の間でなされうるのである。

(2) 先般の崔外務部長官の申入れは、そのまま公表されれば以上の次第によりわが国内に深甚な反響を呼び、日本国民に与える効果については、韓国政府の狙いとは全く逆の結果を生みかねないおそれもある。この

ようなことは日韓兩國の友好關係に害にこそなれなんら益するところとはならないと考える。

(3) しかし日本國政府としては、沖縄がわが國のみならず極東自由諸國の安全保障に重要な役割を果している点は勿論十二分に認識している。

(注) 韓国側申入れを不公表とする点についてはわが方でも韓国側より関心の表明があつたとの趣旨の説明を外部に出している経緯があるので、韓国側においても国会等に対しこの程度の説明を加えることはやむを得ないと考えられる。

(申入れは文書によるものでないとの従来の立場は維持するものとする。)

の姿勢が相違う点とを非常に切
りにしているところ (ケリスの報道あり

北鮮帰還云々)

3 尚方より、グリーン米田務次直補訪

韓米韓口所長直合談 朴大総領
訪米の可能性等について、内先

方より、北鮮帰還、竹島問題等につ
いて、内先が、尚方より、ソウル

2 日米大使館書記官との経過
直接触れること、有益なるべき旨のべ

のに対し、先方は、是非をうたいと
答えた。

アジア局長
課長
参事官

北米第一課長

北東アジア課長

ソウル新聞記者の連絡

在韓米大使館員との懇談

44.4.25

24日 在韓米大使館 Kent 書記官が、北東
アジア課長と米訪し、懇談した。注目
反話

おき、次の通り。

記

1. 沖縄問題 韓口外務部が、対日関
係で今一番重視しているのは、沖縄問題

である。韓口側は、返還自体は何等内
題としておらず、唯返還に伴う、基地

態様の変更が、在韓米軍の撤退とい
う形に波及するところを心配しているところ

ETXレベルでは、沖縄の極東、韓国防
知上の重要性を指摘しているが、本心

は、このようにあると思う。米側は、
本内申入¹²を¹²外部¹²に出すわけ

融けかように行方針であり、返事をする
ことと考える。しかし、韓国側は

今後とも機会ある毎に本内を提出す
ておこう。

2. 安全保障 韓国側は、韓国の安
全保障に際し、日本側を *moral support*

のか、~~この~~遺憾として、~~不~~2回至
期間内、関係者のコミニケーション、韓国の安

全と米が日本の互いに重大な影響が
あることを認め、~~た~~し、~~た~~、日本側

の姿勢が相違う点があることを非常に危
にしているようである (ケリコ報道あり)

北鮮帰還 etc.)

3 尚、米側は、グリーン米田務次直補訪

韓、米韓口防長官会談、朴大統領
訪米の可能性等につき、内閣、先

方より、北鮮帰還、竹島内題案につ
いて、内閣が、米方より、ソウル

で、日米大使館書記官レベルで通
直得触するに、有益であるべきのべ

つに、米方は、是非をうたい、
答える。

堂の脚石

メモを再読して、こころへトナリ、参戦国会議、
はつこのケントの感想は書いじないが、メモ1項、
のように沖繩問題にツソの韓国側の申入りに
つと、米側はなつたけ相手はしないように努
めている。参戦国会議でも、そのような態度
であらうと述べた。

アジア局長
金沢参事官
北東アジア課長

朴大統領の記者会見発言について

11.4.25
北東アジア課

李相権 新東通信社長からの連絡による

本日は、25日(10.00~11.00)青島合大統領官

舎で行なわれた朴大統領の記者会見発言

言要旨は次のとおり。(その日同会見の模様はテレビ
ラジオを通じて全国に中継された)

1. 米偵察機墜落事件

北朝鮮側が計画的に行なった挑発行為

又

度であり、ゆえゆえは二水に巻き込まれてはな
らぬ、忍耐と自重をしなければならぬ、か

れは朝鮮動乱と同様、今度の事件は計画的
共とソ連を引き入る計画的

意図があった、ゆえゆえが忍耐と自重をする

のは北朝鮮を恐れるからではなく、北朝鮮

韓国内事件が起れば、それは朝鮮半島に

対の向題ではないからである。

石、沖繩問題

日本の内政に干渉したくないが、と前

提して、沖繩基地は日本だけの向題でな

く東北アジアの安全保障に重大な役割を果たしており、アジア全体の安全保障に必要な基礎である。

3. 憲法改正問題

大統領三選のための憲法改正に反対する私の態度にかわりはない。

この外、国内経済問題についての発言したことが特に注目すべき点はない趣意である。

なお、駐韓司令部が重要発表を行なうとの話が流れており、消息筋はこれに

つと「北朝鮮の排米事件と関連して駐韓米軍将兵の韓国勤務期間延長、駐韓米軍将兵の警戒態勢の強化」などである旨と伝えられている。

~~先米一課長~~

アジア局長
参事官
参事官
北米一課長
北東アジア課長

沖繩の米軍施設の韓口
移動に関する丁總理発言

亜比 44.4.29

沖繩の米軍施設に関する韓口、丁一叔
國務總理の発言報道につき 28日在京
(別添)

米大使館 (N. Levin 書記官) は ソウル大
使館からの報告によれば 丁總理は上

記報道の発言は *misquote* せよとの旨通
報されたものである。口頭連絡紙にて
(在ソウル米大使館)

(5月2日 Levin に確められたことは、*misquote*
とは 2の5の発言を行はぬこととの

意。)

GA-5

外務省

秋

ま?

事務次官

外務参事官
官房長

アメリカ局長

アジア局長

参事官

参事官

参事官

北米一課長

北米一課長

北米一課長

北東アジア課長

沖繩問題に関する朴 韓口
副總理発言について

亜比 44.5.2

ソウルに於ける世銀の対韓協談グループ会合に
参加した韓口の朴忠勳副總理は、

口途のミソソに立寄りニクソン大統領、ロバ
ーツ國務長官等米要路と会談した。

と云ふ 同副總理の沖繩に関する発言
につき在京米大使館 (N. Levin 書記官)

より、2日口頭通報されたことによる通り
記

(以下、米口務省発在日、在韓口米大使館宛電報に依る)

GA-5

外務省

1. 朴副総理が 米政府は 沖繩問題
につき 韓国政府と "協議 (consult)"

することを同意した旨語ったとの報道に
つき 報道側、特に在韓府の人

記者より 國務省に照会があったと云ふ。
ロジャーズ長官は 勿論 なる 約束

(commitment) は 行なっていない。長官
は この地域における 米国の地位

(U.S. position in the area) 及び 韓国に對
する 安全保障上のコミットメントに依る

ための米国の能力 (U.S. capability to
meet its security commitment to ROK)

の維持に 韓国が 関心をもつること
を認めるに止め、 情勢の進展
(recognize)

と 韓国に 通報 (inform) することの
取に 7.5.11 2.1.3 約束を 繰返すに

止めた。

2. 米國務省は 更に 在韓府 韓国

大使館に 上記の如き 報道側照会

には 「米政府は 韓国政府に 沖繩
交渉につき 引續き 通報する」と

同意した (U.S. Govt agreed to keep
the ROK Govt informed. -) 旨答えるに

と したとを 通報し、 併せて 同大
使館に 対し "inform" と "consult"

の 相違 並びに 先に 引用した
如き 報道が 日本及び 沖繩

交渉に 及ぼす 否定的影響

(negative effect) に、その影響を喚起
 して、

3. 尚米用務省の報道側に対する
 回答は、ロバース長官発言の
 (報道に引)
 misquote といふことはつくりさ
 せるためのことであり、misquote 3
 小長官を非難する発言ではな
 くて、そのため。

GA-6

外務省

アメリカ局長
 参事官
 北米第一課長

秘
 無期限

佐藤総理・朴副総理会談要旨

44. 5. 6
 北東アジア課

世銀の対韓協議グループの会議(4月17及
 び18日、於パリ)からの帰途日本に立寄つた
 朴副総理は5月6日10時30分から11時20
 分まで佐藤総理を表敬訪問した。会談要旨次
 のとおり。

列席者 日本側 保利官房長官、須之部アジ
 ア局長、小杉秘書官、伊達
 北東アジア課長

韓国側 議大使、梁経済企画院企画官
 (佐藤総理) 御旅行中の事件(EC/2/墾墜
 事件のこと)が起つたが、急いで帰国しな
 かつたようであるが。

朴副総理は、
 佐藤総理に
 謝意を述べ、
 北東アジア課
 の長官に
 挨拶した。

(朴副総理) あの事件については韓国は当然のことながら米国支持の立場である。北鮮があの事件を起した理由については、米韓間に解釈の一致がある。すなわち、第一に、米韓間、米日間の離間をはかつたこと、第二にゆさぶりによつて韓国経済の発展を阻害すること、第三に米国の世論を韓国から米国は手をひくべきであるとの方向に向けること、等の効果をねらつたものである。われわれは金日成を気狂いといつているが、気狂いにしては相当計算した上のことだ。

ニクソン大統領も韓国が即時報復をさわがなかつたこと、タースク・フォース71を支持していることについて感謝していた。

日本も偵察機が厚木から出発したことに

抗議をせず、また貴総理や外務大臣が北鮮を非難する旨を明らかにしたことについて米国政府はアブリシエイトしていた。

(総理) 北鮮内部に問題があるようだが。

(朴) 国内的にも問題がある。国民の米国に対する憎悪をかきたてることも目的だつたらう。

(総理) 金日成はいくつか。

(蔵大使) 満58才である。(注: 1912年生まれであるから実際は満57才である。)

(朴) 高血圧で健康はよくない。

中ソの反目のため事を起しても両国の援助を期待できないにもかかわらず今度のことをしたことは、米國務省あたりでも解釈に苦しんでいる。先ほどの解釈もあるけれども辻つまがあわない面もある。

(総理) 38度線の状況は

(朴) ここ2年来のゲリラ活動強化以来現在では全線にわたって鉄条網をしき、簡単には浸透できない。砲撃銃撃はあるが。

米国では外交協会で私が演説をして、韓国動乱で国民の反共意識は極めて強く、政府のゲリラ掃討に協力していると述べて聴衆の称賛をえた。北朝鮮は韓国にデモンストラ^テションを起させる策略であるからゲリラは今後とも継続されると思う。

レアード国防長官には韓国が日本の第一線を守っており、韓国の安全は日本の国防に直結していると強調しておいた。(総理は同感の意を表する)

(総理) 米国は航空機の援助を韓国にするか。

(朴) ニクソン大統領は私に北朝鮮が戦争をしてくるとかと思うかと質問したので、北朝鮮は軍備増強に狂奔し、また一般国民150万を民兵に組織し、全国が一つのミリタリーキャンプの様相を呈しているので、機会があればやるだろうといつたところ、ニクソンは南でも準備ができていないかと反問したので、海、空は劣勢であると答えたのに対してそれはよく知っていると述べていた。

(総理) 米軍は引揚げる気持はないだろう。

一旦事がある時は、在日米軍が韓国に行くだろう。

(朴) そういう時には日本側がそのことに同意してもらわないと困る。

(総理) 朝鮮半島に二つの国が作られることはいけな^いことだ。北鮮の現状は長続きしない^{と思}う。必ず内輸もめが起ると^思う。米ソも協動的であり、ソ連にも内部事情があり中共は北鮮とけんか別れ、中ソも仲よくなる^{とは考}えられないので、北朝鮮自分でやらねばならず頼るところがない。

ただかつて日本人であつた北鮮人の処理については、困つた問題だ^{と思}う。

(敵) 北鮮人ではない。朝総連の影響によつて北鮮側に頼ろう^{として}いる人達である。現在傾向としては大分民^間に有利になつてきている。例えば石川泉では韓国系の信用組合が認可されて韓国側が優勢になつてきている。各府県でもこのように多少力こぶを入れてくれると^有難い。

(総理) 北海道及び東北に問題があるようだ。

いずれにしても、このような問題で日韓関係をそこなり^{ような}ことがあつては困る。

(朴) ニクソン大統領に対して米韓親善は要であるといつてきたが、日韓は相互の安全が直結しているだけに^固結していかなければいけ^ない。離間策に乗じられては^いけない。

朴大統領は平和的民主主義的統一の目標を掲げている。すなわち、韓国の経済開発を推進し、国力を充実すれば自らその力は北に流れて行き、やがては平和的に統一の途が開ける^{という考}え方である。そのためにも経済の発展が大切で、日本から国防面で援助を期待するのは無理であることは承

知しているから経済面で積極的に支援してもらいたい。日本側にお願ひするのは合併投資の促進であり、貿易不均衡の改善である。昨年は日本からの輸入が6億2000万ドル、日本への輸出は1億ドルであつた。韓国側の輸出能力にも問題があるけれども日本側が人為的にI Q、関税等の制限をしているのは困る。一例はあられである。日本業者の反対のために輸入制限をされた。現在両国間で2000トンないし3000トンのラインで話合われているようだが、韓国には高々5000トン位の輸出能力しかない。これを全部入れても大したことではないと思われる。このような日本の措置の韓国民に与える影響は悪い。

保税加工品の原材料分免税措置の対象として11品目がきまつたのは感謝しているが、これから対象品目の範囲を広げるようにもつて行きたい。

合併投資では最近東芝が電子工業を韓国業者と提携してはじめる計画があるときいているが、こういう合併は促進してほしい。

(総理) 発展途上にある韓国が今すぐアンバランスを是正するというのは無理であろうが、行く行くは大丈夫だろう。

(朴) 新聞記者に対して佐藤総理が韓国経済を積極的に援助する旨述べたといつてよいか。

(総理) 結構である。

(朴) 米側の繊維品輸入規制についてはニクソン大統領にもスタンス商務長官にも韓国としては反対であるといつてきた。私の印象では米国もそれほど強硬ではなく、選挙戦の公約だから一応やってみようという程度ではないか。

33万トンの米の長期貸与については、感謝している。

(総理) 虫くい米があるということだが。

(保利長官) 新聞でいわれたほどのことはないようだが、いくらかあつたようだ。

(殿) 虫くい米の件は結局大山鳴動してねずみ一匹というようなもので大したことはない。

(朴) くさつた米といわれ、新聞でも受取りをやめてしまえという意見もあつた。実際はくさつた米ではなかつた。

(殿) 私も日本側の努力で実現された米の貸与について韓国でつまらないことをいうのはすまないと思うが、最初にさわいだのは西日本新聞で韓国新聞がそれにならつて書いたものだ。

(朴) 韓国にとっては二重の効果があつて大

変有難い。つまり米不足を補うことであり、さらに見返資金を農業振興のために使えるという利点がある。資金の一部は高速道路建設の資金にも当てられる。

閣僚会議は今年は能率的に運営したい。コミュニケのために毎年夜通しするのはいけない。事前に実務者によつて十分話をつけておけばよいと思う。

(巖) そのためには自分も7月に帰つて韓国政府と十分打合せをしようと考えている。閣僚会議そのものは大所高所から意見交換を行なえるようにしたい。

(朴) 沖繩問題については、アメリカに対しては韓国は領土問題は日米両国間の問題で干渉する意志は毛頭ないが、沖繩にある軍

事施設は韓国をはじめ北東アジア地域の安全に極めて重要であるので韓国として深い関心をもたざるをえず、その処理については韓国と協議をしてほしいと申し述べた。

(総理) 極東の防衛力が今すぐどうということはないだろう。施政権返還まで時間もあることだし、それまでに考えればよい。日韓両国共栄の途を歩もうということは当然で両国がつぶれてはなんにもならない。

秘
無期限

愛知大臣・朴副総理会談要旨

44.5.6
北東アジア課

1. 日時 5月6日 / 1時30～12時30分
2. 場所 大臣接見室
3. 同席者
日本側 須之部アジア局長、伊達北東アジア課長
韓国側 敵大使、梁企画官
4. 会談要旨

(朴副総理) 閣僚会議は8月下旬を予定しておられるときいているが、そこでは政策的な話をし徹夜をしないようにしたい。そのためには実務者会議を事前に開いて十分打合せを遂げ、コミュニケも事前に作成しておくようにしたい。「考慮」と「配慮」と

どちらがうか文句の一つ一つを交渉するよりなことはやめたい。

(大臣) 全く賛成である。東南アジア開発閣僚会議でも今年はコミュニケの作成が簡単にするだ。やりようによつてはできることだと思ふ。

(朴) 第1回は商業借款の枠の問題、第2回は貿易不均衡の問題があつた。第3回も問題としては不均衡問題だろう。佐藤総理は韓国経済発展支援に積極的である旨quoteして発表してよいといわれた。また韓国の安全は日本の安全に直結していることも佐藤総理は認められた。

韓国は日本の第一線を防衛しているといふ自負がある。日本も韓国の経済発展のため

めに寄与してほしい。

韓国は輸出増進に努力している。今般の世銀協議においても対外債務償還額を外貨収入の15%以内におさえるという約束をした。このため借金の限度をきめざるをえず、他方年率10%程度の成長を實現するとすれば輸出増大をおし進めなければならない。韓国は日本のおとくいであるが、日本側には韓国からの輸入について人為的な制限がある。今年の対日輸出目標は1億8000万ドルで、これを達成できないと敵大使は召還される。(半ば冗談のように)

(敵大使) 先般一時帰国した時貿易振興会議に出席した。そこで対日輸出目標の1億8000万ドルがきまつたのだが、輸出品目

は一次産品ばかりであり、地理的条件が同じなので韓国の豊作は日本でも豊作、韓国の凶作は日本でも凶作になつてしまいくかない。加工貿易、開発輸入等に頼るほかない。

先般の貿易合同委は非常に好評であつた。日本側も韓国経済に熱意をもつているという印象を韓国代表はもつた。今度の閣僚会議について考えてみると、あまり懸案はないので兩國関係はさらによくなるのではないかと思う。

(朴) 絨織品輸入制限についてニクソン大統領に対し韓国にとつて life or death の問題だといつてきた。私は外交協会の演説で economic giant であるアメリカ

が制限をしたら各国は保護貿易に転じ自由貿易は危胎に類するといつたが、ニクソンはその演説をよんだといつていた。この問題について韓国から easy answer を期待するなといつたらニクソンはよくわかつたと述べた。

スタンス商務長官がきて話してみないとわからないが、アメリカの態度もそれほど強くない印象をうけた。

(大臣) 債務償還額について15%のシーリングは非常によい。インド及びインドネシアの例をみても早くそういうシーリングを作るのは有効だと思ふ。

(朴) 今度の世銀協議では総合製鉄所プロジェクトについては、韓国経済の現状とプロジェクトの妥当性からみて根本的に再検討すべしとのラインが出たので、私としては米国及び西ドイツと交渉しても資金融通がつかなければ再検討すると述べて会議を終えた。何しろ国内資金を含めて2億ドルの投資でかなり大きい。

なお、68年の債務償還率は14%とされたが、会議において7.4%に訂正された。

日本からの借款もリーズナブルな限度で

実現したい。今度の閣僚会議でも借款の枠をきめた方がよいか、それとも枠をきめることなく韓国側から優良なプロジェクトが出た場合に日本側が好意的に応ずるということをきめるにとどめるか(自分としては後者でもよいのではないかと考えている)、韓国側でもまだきまつていない。

(殿) 枠を設けると権利、義務があるようになつてうまくいかない。案件ごとに検討するようになった方がよいと朴副総理は考えている。

(朴) 借款は the more the better ではない。しかし、製鉄所プロジェクトについては2年前三木大臣に話をした際も日本側に興味があるようであつたから世銀と話合つて時

期、規模等について手直しを計画ができれば日本からも寄与してもらつたらよいのではないかと内心想つている。

(朴) 33万トンの貸与米についてお礼を申し上げる。虫くい米の問題は minor matter である。500万ドルのKR援助をお願いするにはスプレヤーを希望しているが、

(大臣) 検討しているが、500万ドルというのは難しい。

(殿) この前のお話ではインドネシアに対する援助額が前提であるということであり、その後農機具は好ましくないというお話もあつたので食糧にしてほしい旨申し入れてある。

(大臣) 500万ドルというのは率直にいつ

てむずかしい。援助対象国に韓国を入れること自体難しい問題になっている。

(朴) ワシントンで聞いた話だが、日本はアジア諸国に対する援助を増大する方針であり、とくにインドネシアと韓国を重視していると発表されたそうだが。

(大臣) 援助について新しい構想をもつていくことは東南ア開発関係会議やアジア開銀総会等で明らかにしたが、インドネシア、韓国、二国を特記して重点とするということとはなかつたと思う。

(朴) 韓国は日本の good neighbour でありその他大勢の中に入れては困る。

(大臣) 韓国は別だという気持ではいるが、スピーチでそういつたことはないだろう。

我
無期限

アジア局長

分析課長

参事官

北米一課長

北東アジア課長

北米二課長

主席事務官

愛知大臣の訪米

6月19日

北東アジア課

6月19日付政才1252号を以て在韓国

大使館から送付越した 韓国中央情報部

「日日情報」

提供資料(69年6月20日付才126号) 1-53

沖繩問題 1-3-29

「愛知日本外相の訪米」に因る 同部

分析課文 次のとおり

記

添付なし

1. 沖縄の早期返還問題は、佐藤首相の政治生命としか重要な問題でない。日本は、同問題と政治的ナショナリズム、人道主義的観念から認識している。

2. 米国側は、これを国家的、現実論に之脚し極東の安全保障上、必要であるとして強調。同島の施政権返還に關する具体的言質を求むる。

3. 同外相の今次訪米は、沖縄返還の日本の政治的接衝としての使命を以てしあり。日本は、7月の米経済合同委員会、9月の国連

外務省

総合の際にこの機会を通じ、米国側と意見と調整し、11月に行われる佐藤ニフソン会談で解決するよう準備を展開して行く。

4. 日本政府は、69年に返還に同意した旨を22年までに返還を受け、其他の採相は、本工場の基本線から出発して行く。

5. かくに施政権返還問題は、基地の採相と返還時期が問題であるが、米国は、核を備ふことによる自由使用の阻害に反対して行く。

6. 日米間の見解の相違を以て朝鮮半島の危機に對する認識であるが、米国は、これを

外務省

強調し、日本は韓国⁴の安全が強化されること

を乞う。

7 韓国は、沖縄基地が韓国を悩ませている

アジア諸国の安全に密接な関係がある^{と云う}

注意を喚起しているところがある。

局長
北米第一課長

オノの仲絶つてのの平の言ふありのあり

第三回日韓定期閣僚會議共同コミュニケ

一九六九年八月二十八日
東京で

- 1 第三回日韓定期閣僚會議は、一九六九年八月二十六日から二十八日までの三日間、東京において開催された。
- 2 會議には、日本側からは、愛知揆一外務大臣、福田赳夫大蔵大臣、長谷川四郎農林大臣、大平正芳通商産業大臣、原田憲運輸大臣及び菅野和太郎經濟企画庁長官が金山政英駐韓大使とともに出席し、吉国二郎国税庁長官及び森本修水産庁長官も出席した。
- 3 韓国側からは、金鶴烈副總理兼經濟企画院長官、崔圭夏外務部長官、黄鍾律財務部長官、趙始衡農林部長官、金正濂商工部長官及び姜瑞龍交通部長官が嚴敏永駐日大使とともに出席し、李洛善国税庁長及び金在植水産庁長も出席した。

4 會議は、次の事項を議題として採択し、討議した。

- (1) 両国關係一般及び國際情勢
- (2) 両国の經濟情勢
- (3) 經濟協力問題
- (4) 貿易問題
- (5) 農林水産問題
- (6) 交通運輸問題

5 両国の閣僚は、終始、率直かつ友好的な雰囲気の中に議事を進めた。

會議は、まず全体會議において、國際情勢及び両国關係を一般的に討議し、両国の經濟情勢についてそれぞれ説明を行なつた後、國際情勢及び両国關係、經濟協力、財務、貿易、農林水産及び交通運輸の各問題に関する個別會議を開催し、最後に再び全体會議を開催して総括を行なつた。

6 両国の閣僚は、両国関係全般に関して検討した結果、両国政府が長期的な観点から互恵の原則と信義に立脚した両国間の善隣協調関係を一層発展させるため引き続き努力することに合意した。

7 両国の閣僚は、国際情勢一般、特にアジア太平洋情勢に関して広く意見を交換し、沖繩問題にも言及した。

8 両国の閣僚は、アジア太平洋情勢の検討にあつて、地域内の一部に緊張が存続している事実に遺憾の意を表し、かかる緊張にもかかわらず、地域内の自由と民主主義を国是とする諸国が着実に経済的社会的発展を遂げつつあることに満足の意を表した。両国の閣僚は、これら諸国がかかる発展のために相互に協力し、アジア太平洋地域の緊張緩和のためさらに努力すべきであることに意見の一致をみた。

9 両国の閣僚は、両国の安全と繁栄が極めて密接な関係にある

こと、及びアジアにおける平和と繁栄が両国共通の目標であることを認め、その目標の実現のために、両国が引き続き協調し、努力することを再確認した。

10 韓国側は、北からの大韓民国に対する侵略的挑発行為が継続激化している最近の事態を説明し、また、大韓民国の政府及び国民が朴大統領の指導の下に固く団結し、自由友邦国家の継続的な理解と支持を得て、一面国防一面建設の国家政策を成功裡に遂行している事実を説明した。日本側は、これに対し、大韓民国の政府と国民が、かかる事態に対処しつつ、自国の安全の確保と経済開発の分野でなし遂げた画期的な業績に対して敬意を表明した。

11 両国の閣僚は、ヴィエトナム問題に関するパリ会談を含む最近の情勢に注目し、外部からの圧力と脅威なしに自らの将来を決定しうる自由と権利がヴィエトナム国民に保証されるような公正にしてかつ永続的な平和が可及的速かにもたらされるようにヴィエトナム問題が解決されることについて強い希望を表明した。

12 両国の閣僚は、過去一年間におけるアジア太平洋理事会の活動とその成果に対し満足の意を表し、この機構を通ずる地域的協力体制のより一層の発展と強化のため、両国が引き続き協力することに合意した。

13 両国の閣僚は、両国が引き続き国際連合その他の国際的な機構及び会議を通じて協力することが有益であること、特に韓国統一のための国際連合の諸般の努力に対し引き続き協力することを再確認した。

14 両国の閣僚は、一九六九年八月十九日及び二十日の両日にかけて開催された両国法相会談が法的地位協定に基づく在日韓国人の永住資格の取得の促進に貢献したことを歓迎し、今後とも教育及び生活の向上等を通じて彼等の福祉が一層増進されるために努力が払われるべきであることに意見の一致をみた。

15 韓国側は、在日韓国人の信用組合の設立及び公庫の代理業務の取扱い等について、日本側の好意的配慮を要望し、日本側は、信用組合の設立問題は都道府県知事の認可事項であるが、政府としては好意的に考慮している旨述べ、また、公庫の代理業務については、原則として差別しない考えであるが、公庫の性格等から考えて、實際上、種々問題があると述べた。

16 韓国側は、在日韓国人の家族送金規制を緩和するとともに帰国時持帰り金の枠を引き上げるよう要請したのに対し、日本側は、在日外国人の^{居住者}経常的所得の本国向け定期送金について従来の制限

を廃止するとともに、帰国時持帰り金の枠についても従来の日本銀行自動許可枠一世帯当たり一万ドルを五万ドルに引き上げることとした旨発言した。

17 両国の閣僚は、在日韓国人の「北送」及び在樺太韓国人の帰還問題を討議し、第二回日韓定期閣僚会議の共同コミュニケに述べられたそれぞれの立場を確認した。

18 韓国側は、総合製鉄所の建設につき、日本の対韓経済協力における最優先計画として、日本側の協力を要請した。日本側は、これに深い理解を示し、これに協力するため、本計画のより具体的かつ実際の調整のため、調査団を派遣することを約した。

19 両国の閣僚は、民間実業人による合弁投資の積極的進出が両国間の経済関係の緊密化に資するものであることを確認した。

20 両国の閣僚は、日本から供与される漁業協力、船舶輸出及び一般プラントのための民間信用の問題について、従来同様、本年も

引き続き実施して行くことに意見の一致をみた。

21 二重課税防止協定に関し、両国の閣僚は、第二回日韓定期閣僚会議共同コミュニケで合意された課税原則に基づく協定の内容について合意に達し、同協定の発効に努力することに意見の一致をみた。

22 韓国側は、在日韓国人に対する諸般の課税問題について適正を期するよう日本側の措置を要望し、日本側は、これに対して今後とも十分に配慮することを約束した。

23 (1) 両国の閣僚は、両国間貿易の不均衡を漸次是正することが両国経済関係において極めて重要な問題であるとの認識をさらに深め、今後ともあらゆる可能な方法によりその解決に努力すべきであることに合意した。

(2) 韓国側は、加工再輸入品の原材料分関税軽減制度の適用品目の追加につき日本側の特段の配慮を要請したのに対し、日

本側は、一九六九年末までを目途に品目追加に関し、積極的に検討する旨約した。

また、日本側は、韓国側の関税引下げ要請に関し、非食用海藻の一部、はまぐり（生鮮、塩蔵）、莞草敷物を含む若干の品目についてKR最終税率の繰上げ実施等の関税率の引下げを検討する旨約した。

(3) 日本側は、文化映画の輸入促進、工業所有権の保護、差し当たり韓国在住の日韓合弁法人が日本人から特許を受ける権利等の譲渡を受けた場合特許権等の享有を認めることについて要請したのに対し、韓国側は、前向きに検討する旨約した。

24

農林水産問題に関し、

(1) 韓国側は、農林水産物の輸出拡大の観点から、農水産物の開発輸出について両国民間資本の合弁投資、契約栽培、特にそのための技術協力等への日本側の積極的な協力を要請したの対

9

し、日本側は、国内産品の需給事情を考慮しつつ、一次産品の貿易拡大のために相互に相当と認める品目を選定し、当該品目の開発輸出に関する具体的方策を極力推進することに合意した。

(2) 韓国側は、現行ののりの輸入時期及び取引方式は合理的でないことを指摘し、韓国側の生産漁民の利益を図るため、現行方式の改善を強く要請したのに対し、日本側は、現行ののりの輸入時期及び取引方式を直ちに変更することはできないが、本問題は、両国ののりの生産流通の実態の進展に伴い漸進的に解決されるべきものである旨述べた。

両国は、今後、本問題を両国の関係者の間において検討することに合意した。

(3) 韓国側は、一九六九年の輸入割当数量の残枠については、本年の例外措置として輸入を認めるよう要請したのに対し、

10

日本側は、残枠については所定の期限までに極力輸出されるよう述べ、なお残枠を生じた場合には検討する旨述べた。

25 両国の閣僚は、両国間の海運協定締結問題及び船舶借款問題について極めて有意義な意見の交換を行なった。

26 両国の閣僚は、今回の会議が、両国の相互理解を深め、かつ友好協力関係を一層確固とする上に極めて有益であつたことに意見の一致をみた。

27 両国の閣僚は、第四回日韓定期閣僚会議を、来年、両国政府が合意する時期にソウルで開催することに合意した。

28 韓国側閣僚は、このたびの第三回日韓定期閣僚会議に際して日本国政府と国民から示された歓待に対して謝意を表明した。

北米第一課長

愛知外務大臣閉会式挨拶

第三回日韓定期閣僚会議を閉会するにあたり日本側出席閣僚を代表して一言御挨拶申し上げます。

今回の会議が過去二回の会議に較べて、一段となごやかな雰囲気において極めて円滑に議事をとり運ぶことができましたことは、全閣僚の御尽力、とくに韓国側閣僚各位の御協力によるものであり、同時に、日韓両国の協調関係が今や一段と固まつてきたことの証左であると申すべきであり、私といたしましてもまことに欣びにたえない次第でございます。

会議の具体的成果についてみましても、今回は、総合製鉄所建設問題の今後の取り進め方について建設的な了解が成立し、また、

二重課税防止協定の内容について合意をみたほか、その他各個別
会議の具体的な問題につきましても、前二回を上まわる成果をおさ
めたことは特筆に値すると存じます。

また、今回の会議に際し、金副総理をはじめとする諸長官と親し
くお話する機会を得たことは私個人にとりましても、日本側一同に
とりましても大きな喜びでございました。

ここに、韓国側閣僚各位の御協力に心から感謝の意を表したいと
存じます。次回はソウルで再び皆様にお目にかかり、あわせて韓国
の一段の御繁栄ぶりを目のあたりに拝見する機会を得ますことを楽
しみにしております。ありがとうございました。

秘
無期限

アメリカ局長
岩手
佐藤 浩

アジア局長
金沢 孝
小林 隆
安全保障課長
佐々木 (印)

文亨泰 韓国合同参謀会議議長の
沖縄におけるランポート司令官との会談
の模様について

45. 5. 26
北東アジア課

1. 文議長は 5月10日より台湾、フィリピン、マレー
シア、シンガポール、インドネシア、フィリピンを歴訪
後 23日 沖縄に立ち寄り 25日 ランポート司令官
と会見した由である。その模様については 本 26日
在京米軍大使館 レビンより ^{Y.A.とあり} 連絡(電話)が

GA-5

外務省

181

あつたので 御参考まで。

なお、文議長は 26日 来日し 29日 帰国の

予定であるが 滞日中のスケジュール(別添)

には 防衛庁長官及び 統幕議長に対する表敬

訪問、エキスポ見学等が含まれている。

2. 文はランポートに対し 日本訪問の際には 中留根

防衛庁長官ほか 日本政府要人に 会う予定にな

っていると語っていた。ランポートは在沖縄米軍

に関するスタンダードブリーフィングを受けたのに対

して、文は次の諸真について説明を求めた。

(1) 真珠湾のような 沖縄に対する共産圏の奇襲

GA-6

外務省

に対する政策が立てられているか。

ランポートは その可能性は米軍において常に検討されている旨 答えた。

返還後の

(4) 政治的または 軍事的理由によって在沖縄基地が 韓国支援のために 使用できない場合には 米軍は グラム、ハワイ 等の 地兵から 韓国を支援できるか。 なお 文は この際 1969年6月の 佐藤総理との 会見の際 同総理は 返還後においても 在沖縄 及び 在本土の 米軍は 韓国防衛のために アベイブルであることに 変わりはないと 文に 語った旨 述べた。

これに対し ランポートは、1969年11月の 佐藤ニクソン共同コロンネーションに言及し、現在の極東情勢の下において 沖縄にある米軍が 重要な役割を果していることについては ニクソン大統領も 佐藤総理も 十分認めていることを 強調した。

(ハ) 文機長より 本年4月の「コーンランドラコン」訓練作戦の際 天候条件悪化のため 沖縄の米軍援が 参加できなかったことについての 懸念を表明し、ランポートに対し 右の 韓国の 懸念を ハワイ司令部 及び 米国防務省本部に 報告するよう 依頼した。

別添

文韓国会議長の行動予程
(防犯終了)

5月26日(火) 14:30 横田空軍基地看
車 東京へ
宿舎 ホテルオ-75

5月27日(水) 午前 在日米軍司令官訪内

16:00-17:00 防犯庁訪内
防犯庁長官 訪内(表敬)
総幕議長

5月28日(木) EXPO 見学 (日帰り)

5月29日(金) 14:00 横田発帰国

備考: 帰国は5月30日 16:00 横田発 明
5月31日 14:00 他: 細部は文大付
到着後27日付で付す(41)

北米才一課

46-2-22

柳 韓口防次官の
沖縄関係発言 (2月22日午後 防犯終了)

北米才一課

向 日本でも在日米軍が撤退し

また来年には 沖縄が返るか

核抜きにあり 本土と同じ方針

限らうかの 韓口は 沖縄に

この 採否を希望する

答 沖縄の返かは 日本領

土地帯を返すにあり

よるにいいことである。 72年

沖縄が日本に返るか

といつて 極東における脅威が

増大が3と1は考之2111。

○ 基地と12の沖縄の価値1=7112は

日本の人12は5<理解12極東

の防衛1=7112考之12下33と

の1考之2ありす。

比摩アリア課

加藤 正行

池田幸彦 (6/20/15) W

照会.

1. 現在アエ3. 記者会見がある
と15 幸彦に知らせた。

2. 武彦が目下随行中にて。
と10 速早く詳細を伝える

と15 分るが。合リ次第

当方(田中)にて通報終了由。

(15:10 田中)

北米1課 田中 存
不審の英が来たら
防衛庁内局広報課
408-5211 Ext 2027 柏木 3佐

GA-6

にお尋ね下さい。

外務省

韓国国防次官との記者会見

46 /

46.2.22 1430~1450 記者クラブにおいで

20
2

(問) ニクソン・ドクトリンにもとづき米軍の撤退が行われているが、韓国から見た70年代の極東情勢についてお話し願いたい。

(答) ニクソン・ドクトリンに従って米軍の撤退がアジアで実現されているが、今後ほとんど進められて行くであろう。韓国もこのニクソン・ドクトリンの影響を受ける国の一つであるが、何時までも自国の防衛を外国に維持してもらうのはよいことではな。自主防衛を進めるべきであると考える。

(問) 日本でも在日米軍が撤退し、また来年には沖繩が返還され、機軸まにり本土と同じような制限を受けるが、韓国は沖繩についてどのようなことを希望するか。

(答) 沖繩の返還は、日本の領土地帯を返してもらい、であり喜ばしいことである。72年に沖繩が日本に返還されたからといって、極東における脅威が増大するとは考えていない。
基地としての沖繩の価値については日本人はよく理解して極東の防衛について考慮して下さるものと考えております。

(問) 来年から日本は4次防の年になり、国の内外の一部から軍国主義についてよくいわれているが、日本の軍国主義の南からの脅威を心配しているが。

(答) 韓国新聞の一部でも日本軍国主義についての社

46 2

説のそののを見たことがある。世界の世論が注目していることは事実であるが、日本だけでなくどの国も自衛力を持つことは必要である。しかし、限界を考へるべきであるが、日本には新憲法もあるし、防衛白書の中でも防衛力の限界を述べているので脅威とは感じていない。

(問) 韓国と自衛隊との協力関係はどのようなものが望ましいと考えるか。

(答) 今回のような招待の形でもよいか、双方の実務担当者が理解を深める機会を増やすことがよいと思う。重要なことは、日韓国交樹立後の政治・外交の移り変りに合せて行くのがよいと考えている。
なお、設解のないようつけ加えますが、日韓の間には軍事提携について公式にも非公式にも話しあつたこともなく、また今、そのようなことは考えていない。

(問) Freedom Vault 演習の意義について説明願いたい。

(答) 3月3日~6日にかけての演習の目的は、何時も共産主義からの武力侵犯の脅威にさらされている我が国として、ニクソン・ドクトリンの実現とともに、武力脅威に対する空中機動力、戦力の集中を演練すること、このデモンストレーションにより武力脅威に対処できることを示すことである。

この度、土屋政務次官の招きで日本を訪問した

ことを喜んでおります。

土屋政務次官は韓国において深い理解をもつておられるので、今回土屋政務次官にお渡しするよう命ぜられて修交勲章を拜つてきました。25日午前、韓国大使館邸でお渡しする予定です。

沖繩が返還されても脅威は増大せぬ
韓国が官場を
土曜防務次官の発言で二十
一日米日七御根昌ヘリコプ
・チン 韓国防務官は同日
午後、防務で記者会見し「沖繩

が、核攻撃・本土並みで日本に
返還されても、韓国の脅威が増大
するとは思われない。返還も日本
は、防衛防務のための沖縄基地を
よく守り、今以上に同基地
を機能させるよう考慮して、くれ
るものと期待している」と述べた。